12月定例会を振り返って

会派の意見

市民クラブ

岡﨑市政５期目への抱負と政治姿勢を問う

近藤強議員が代表質問

近藤強議員は、市長選挙後、初の議会であることから、市民クラブを代表して代表質問を行った。

岡﨑市長５期目の当選に当たって、市長公約である南海地震対策や共生社会づくりに向けた今後の具体的な取り組みについてただした。中でも、選挙戦を通じて岡﨑市長が強調した、南海地震の災害関連死防止対策について質問を行った。

甲木良作議員は、若い世代の立場から、若者の流出超過対策と転入支援について、第２期まち・ひと・しごと創生総合戦略で、若者や子育て世代をどのように支援していくつもりなのか質問を行った。防災対策では、避難所の環境整備やトイレ対策、防災教育、具体的な災害関連死防止対策や復興計画など、執行部への質問と提言を行った。

神岡俊輔議員は、千葉県で９月に発生した台風による長期停電被害への対策や、熱中症等による災害関連死防止策への対応について執行部の考えをただした。

また、国による「南海トラフ地震臨時情報」が発表された際の、避難所や小中学校等の対応について現状報告を求めた。津波等による浸水地域からの救出に有効であるとして、消防局への水上バイク導入を提案した。

日本共産党

市民の命と暮らしを守る立場で財政再建など市長の姿勢を質す

はた議員が代表質問で、生活道などの補修促進を求め、財務部長が「国の制度も活用し予算確保に努める」と答弁。子育て支援として中学生の医療費無償化を求めたが、市長は実施に後ろ向きな答弁に終始した。

個人質問は、**島﨑**、**細木**、**下元**、**浜口**、**下本**の５名が登壇。

◆鏡・土佐山の公民館や集会所の耐震化の遅れを指摘し、防災対策部長は「促進する」と答弁。越水対策でも小河川への危機管理水位計の設置を求めると、「設置を協議する」と応じた。

◆ＬＧＢＴなど多様な性のあり方を認めるパートナーシップ制度への見解を問い、市長も「当事者の応援になる」と答えた。

◆教員の長時間労働は、変形労働時間制導入では改善されないと指摘し、教育長が「導入は考えていない」と表明した。

◆６８００万円の新庁舎工事費増額の市長専決処分議案に対し、資料や説明が不十分だと反対。

◆収支不足への対応（４２０億円の市債借り換え）について、財政を悪化させた箱物行政自体への反省が必要だと指摘した。

保守・中道クラブ

市長選を終え、改めて市長の政治姿勢を問う

平田文彦議員が代表質問に立ち、選挙戦の振り返りと今後の政治姿勢等に言及、得票率が50％に届かなかった結果や市長が掲げる共生社会について答弁がありました。財政では、経常収支比率98・４％と硬直化した状態からの脱却について問い、その他予算編成、防災等について具体的な答弁を引き出しました。

和田勝美議員の個人質問では、過疎地域指定の鏡・土佐山への継続支援を求め、市長は過疎指定の重要性から、国や地元国会議員に要望を行い、制度継続に向け積極的に活動すると述べた。関連して、中山間農業の問いに、担当部局から農村、農業の持続的発展の取り組みを進めるとの答弁を引き出しました。

竹村邦夫議員の個人質問では、斎場運営への市の姿勢と、火葬炉改修前後の比較等の諸問題を追及しました。故人をしのぶ、遺族にとって大切な儀式に対する、現状の対応は非常に許しがたく、市民ファーストの観点からもかけ離れており、最期の儀式は最大限の尊厳と配慮を促すよう、市長に強く要望しました。

公明党

公明党は、岡﨑市政５期目のスタートに当たり、是々非々の立場で質問戦に臨みました

髙木妙議員は、公明党を代表し岡﨑市長のマニフェストや重要な議案について質問しました。中でも、指定管理者選任議案に対し、選定過程に透明性・公平性が担保されているとは言い難い点を指摘しました。

伊藤弘幸議員は、台風10号による大型看板の落下を踏まえ、一定規模の広告物には、有資格者の点検が必要であると指摘し、看板落下防止への条例改正に着手するとの答弁を得ました。

山根堂宏議員は、岡﨑市長に対し、令和新時代を担うリーダーとしての市政の運営方針を聞くとともに、浜田新知事とのトップ会談のテーマ選定と早期の実施を促しました。

西森美和議員は自主防災組織の活動支援の人口加算の導入を求め、前向きな答弁を得ました。また女性の地域防災組織の必要性を訴えカリキュラムの構築や活動予算の確保を提案しました。

新こうち未来

三者が西敷地に広場を求めた

代表質問に立った**氏原嗣志**議員は、白紙に戻したという新図書館西敷地問題で、一貫して広場を求めてきた会派の態度を明らかにしながら、高度利用と称して複合施設を建てることに重ねて反対し住民投票を提起した。

個人質問では、**川村貞夫**議員が筆山文化会館を防災的見地からも建て替えるように迫り、執行部からその必要性を認める答弁があった。

戸田二郎議員は、家庭ごみの有料化や開発指導の迅速化、職員定数の削減にも言及した。

山嶽会

多様な声を市政に反映

髙橋裕忠議員が質問に立ち、防災から不登校の問題、交通安全などさまざまな角度から課題について質問・提案をさせていただきました。今後も、市民の皆さまの声を議会から市政に反映させてまいります。

清和クラブ

海治議員は、市長の政治姿勢について質問。将来の人口問題や高齢化問題に県市連携により全力で取り組むことを確認。四国新幹線の実現に向け地方から声を上げ続ける答弁を得、来年度予算で市民生活に直結する予算確保に努力するよう求めた。